



2015年度第2四半期 決算説明資料

2015年10月30日

© 2015 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.



2015年度第2四半期決算の概要について説明します。

I. 2015年度第2四半期決算実績

・サマリー	3
・セグメント別内訳	4
・貸借対照表	5
・主要財務指標／キャッシュ・フロー	6
・受注高・受注残高	7
・売上高	8
・営業利益	9

II. 2015年度業績見通し

・業績見通しサマリー	11
・セグメント別内訳	12

III. 補足資料

補足資料	14-19
------	-------

I . 2015年度第2四半期決算実績

第2四半期決算実績 サマリー



(単位: 億円)

	'14-2Q累計 (利益率)	'15-2Q累計 (利益率)	増減 (増減率)
受 注 高	17,641	17,844	+202 (+ 1.1%)
売 上 高	17,591	18,820	+1,229 (+ 7.0%)
営 業 利 益	(6.7%) 1,182	(6.2%) 1,159	△ 22 (△ 1.9%)
経 常 利 益	(7.3%) 1,279	(5.9%) 1,118	△ 160 (△ 12.6%)
特 別 損 益	△ 398	△ 328	+70 -
純 利 益 (※)	(2.2%) 380	(2.3%) 433	+53 (+ 14.0%)
EBITDA	(11.3%) 1,995	(10.5%) 1,971	△ 24 (△ 1.2%)

'15-2Q累計特別損益
(△328)の内訳

【特別利益】

・ 固定資産売却益 42

【特別損失】

・ 客船事業関連損失 △309
・ 事業構造改善費用 △33
・ 投資有価証券売却損 △27

(※) '15-2Q累計は「親会社株主に帰属する当期純利益」

© 2015 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

3

受注高は前年同期から202億円増加の17,844億円、売上高は前年同期から1,229億円増加の18,820億円となりました。

なお、前年同期には在外グループ会社の決算期変更影響が含まれていますので、その影響を除いた実質的な比較では、受注高は1,400億円増加、売上高は2,300億円増加しています。

営業利益は、交通・輸送が円安の効果もあり大きく増益となりましたが、エネルギー・環境が一部のガスタービン・コンバインド・サイクル用蒸気タービンの不具合対策費用の計上等の影響で減益となり、全体では僅かながら前年同期を下回りました。

一方、純利益は前年同期を上回る433億円、また、EBITDAは1,971億円でした。

なお、特別損益をマイナス328億円計上しましたが、内訳は下に記載のとおりであり、主に客船事業関連損失を計上したことによるものです。

なお、客船事業関連損失につきましては、これまでも各決算期において都度その工事進捗状況等を反映して、損失発生見込額を引当計上してまいりましたが、当期におきましても、309億円もの損失の追加引当のやむなきに至りました。損失引当の背景になりました工事の現況につきましては、12月の引渡しに向けて海上試運転を始め各種機能確認試験と同時並行的に内装工事の最終仕上げに全力を尽くしているところであり、それらに伴う追加コストの発生が見込まれています。

本船は極めて高品質、高効率の設計仕様となっており、その遂行にあたってはこれま

でも設計、建造、資材調達において当社の想定を遥かに上回る困難に直面し、また多額のコストを掛けてまいりましたが、この最終段階において完工引渡しに向けて最大のリソースを投入し、全力を尽くしている状況にあります。

客船建造については、結果として当社の経営成績、財政状況に大きな影響を与えてまいりましたが、ここで得た知見を2番船は勿論のこと、当社経営全般に必ず活かしてまいります。

第2四半期決算実績 セグメント別内訳



(単位: 億円)

	受 注 高			売 上 高			営 業 利 益		
	'14-2Q 累計	'15-2Q 累計	増減	'14-2Q 累計	'15-2Q 累計	増減	'14-2Q 累計	'15-2Q 累計	増減
エネルギー・環境	6,507	6,119	△ 388	6,831	6,811	△ 19	618	377	△ 241
交通・輸送	3,793	2,923	△ 870	2,425	2,800	+375	54	330	+275
防衛・宇宙	656	1,438	+782	1,746	2,050	+303	81	114	+32
機械・設備システム	6,374	7,163	+789	6,337	6,898	+560	423	322	△ 101
その他	955	922	△ 32	708	905	+196	46	82	+36
消去または共通	△ 646	△ 724	△ 78	△ 458	△ 646	△ 187	△ 42	△ 66	△ 24
合計	17,641	17,844	+202	17,591	18,820	+1,229	1,182	1,159	△ 22

© 2015 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

4

第2四半期決算実績 貸借対照表



貸借対照表

(単位:億円)

	'14年度末	'15-2Q末	対前年度末 増減
売上債権	12,912	11,237	△1,675
たな卸資産	13,248	14,444	+1,196
その他流動資産	9,358	9,358	△0
固定資産	11,963	11,772	△190
投資等	7,720	7,825	+105
資産合計	55,203	54,638	△564
買入債務	8,692	7,778	△913
前受金	6,631	6,344	△287
その他	8,923	8,626	△296
有利子負債	9,755	10,841	+1,085
純資産	21,200	21,047	△152
(うち自己資本)	(17,807)	(17,622)	(△185)
負債・純資産合計	55,203	54,638	△564

© 2015 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

5

貸借対照表について説明します。

売上債権の回収は進みましたが、棚卸資産が増加しました。

負債・純資産は、買入債務、前受金が減少したことにより、有利子負債も増加し、有利子負債残高は1兆841億円となりました。

棚卸資産については、生産効率化など改善の余地がまだまだあると考えていますので、引き続きバランスシートの圧縮に努めてまいります。

第2四半期決算実績 主要財務指標／キャッシュ・フロー



主要財務指標

	'14年度末	'15-2Q末	対前年度末 増減
自己資本比率	32.3%	32.3%	0
有利子負債残高 (単位:億円)	9,755	10,841	+1,085
D/Eレシオ	0.46	0.52	+0.06

キャッシュ・フロー

(単位:億円)

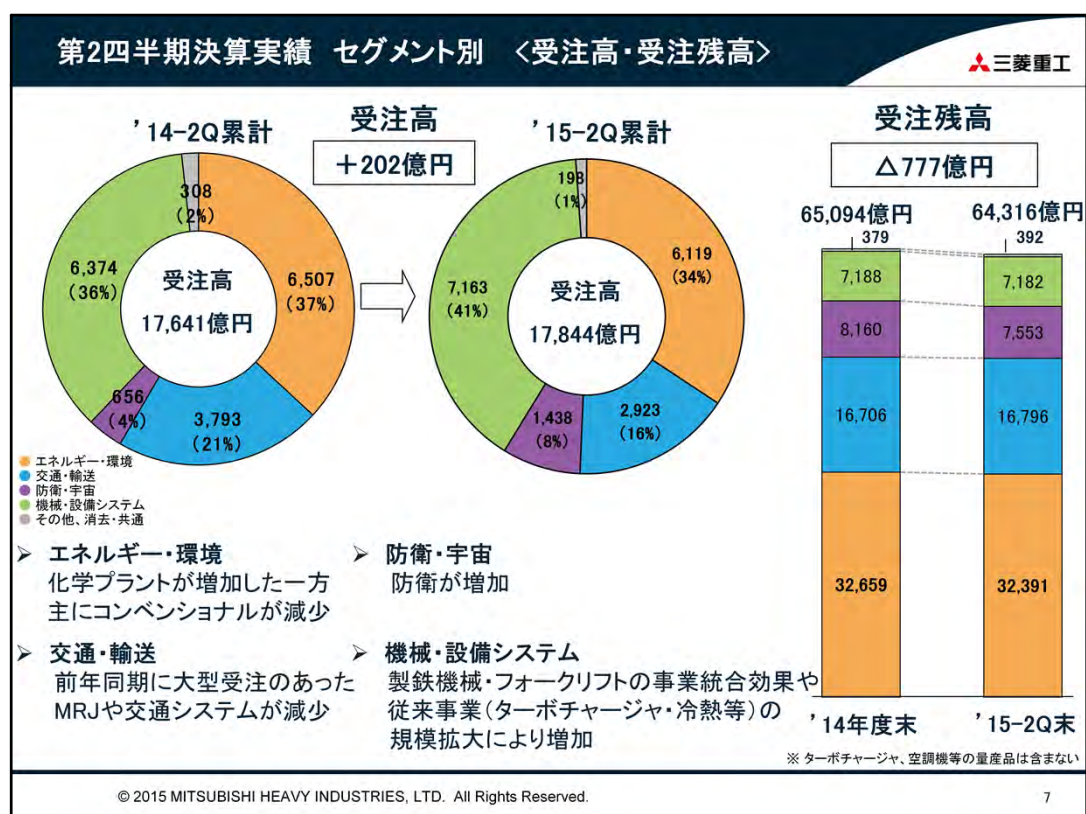
	'14-2Q 累計	'15-2Q 累計	増減
営業CF	59	△ 271	△ 330
投資CF	△ 1,004	△ 869	+135
フリーCF	△ 945	△ 1,140	△ 195

© 2015 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

6

自己資本比率は前年度末と同水準でしたが、D/Eレシオは有利子負債の増加により前年度末から悪化しています。

当期のフリー・キャッシュ・フローはマイナス1,140億円となりましたが、これは主に、客船事業に伴う悪化およびMRJの開発がピークをむかえていることによるものです。これについては年間を通じてバランスシートの更なる効率化に取り組み、カバーするよう努めます。



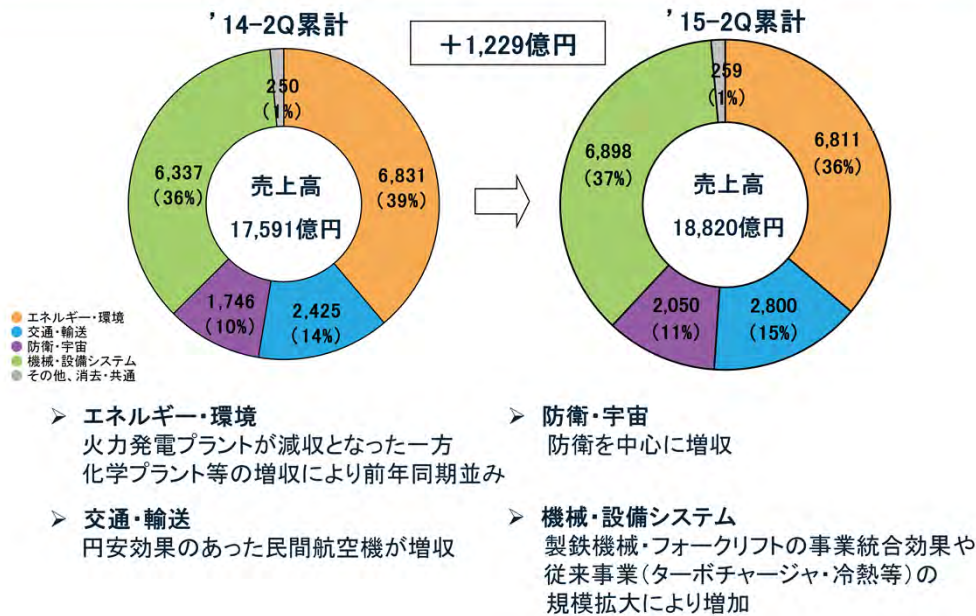
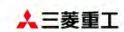
左の円グラフは受注高、右の棒グラフは受注残高を示しています。

受注高は、エネルギー・環境と交通・輸送が減少しましたが、防衛・宇宙と機械・設備システムが増加しました。

交通・輸送の減少は、前年同期に大型受注のあったMRJや交通システムが減少したことによるもの、機械・設備システムの増加は、主に製鉄事業やフォークリフトのM&A効果によるものです。

右の棒グラフですが、受注残高は、前年度末から777億円減少の6兆4,316億円となりました。

第2四半期決算実績 セグメント別 <売上高>



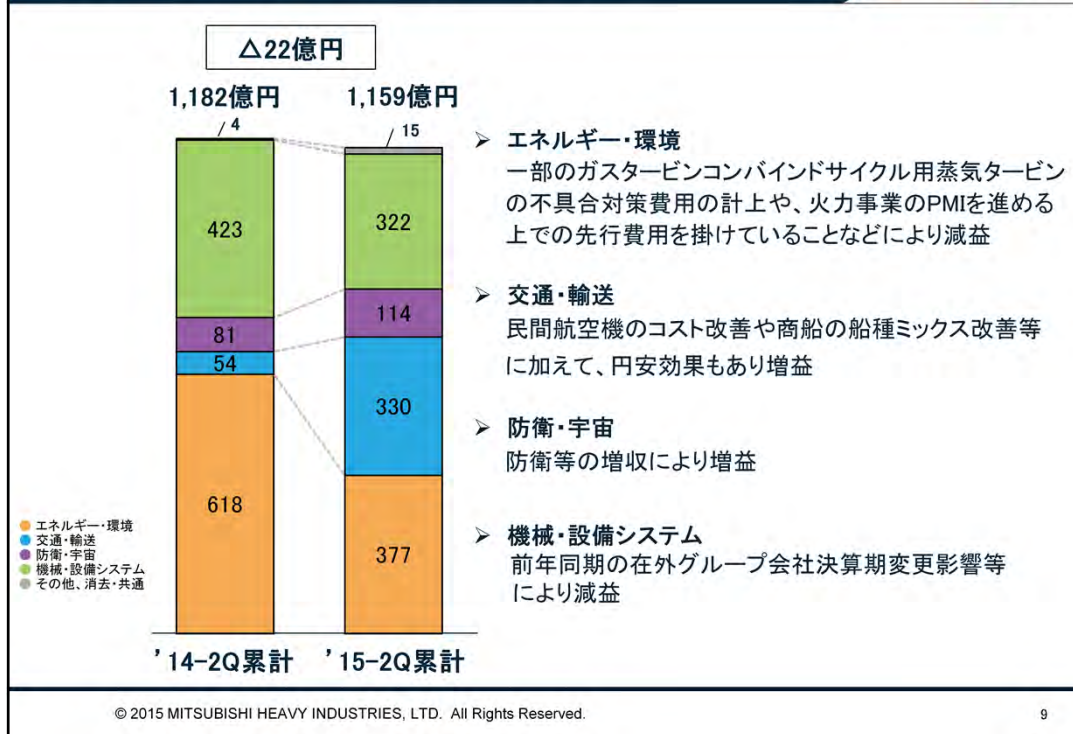
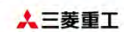
© 2015 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

8

売上高は、エネルギー・環境は前年同期並みでしたが、交通・輸送、防衛・宇宙、機械・設備システムが増収となりました。

ドメイン別の主な増減要因はグラフの下に記載のとおりですが、交通・輸送は民間航空機が増収、機械・設備システムは受注同様、製鉄事業やフォークリフトのM&A効果によるものです。

第2四半期決算実績 セグメント別 <営業利益>



営業利益は、交通・輸送が大きく増益、防衛・宇宙も増益となった一方で、エネルギー・環境、機械・設備システムが減益となった結果、全社合計で若干の減益となりました。

エネルギー・環境は、一部のガスタービン・コンバインド・サイクル用蒸気タービンの不具合対策費用の計上やPMIを進める上での先行費用を掛けていることもあり、前年同期対比で減益となりました。

交通・輸送は、民間航空機のコスト改善や商船の船種プロダクトミックスの改善等に加えて、円安効果も加わり、大きく増益となりました。

機械・設備システムは、決算期変更影響により減益となりましたが、その影響を除いたところでは、ほぼ前年並みに推移しています。

Ⅱ．2015年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
従いまして、この業績見通しのみに基づいて投資判断を下すことは控えさせていただきますようお願いいたします。
実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。
実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

2015年度業績見通し サマリー



三菱重工

(単位: 億円)

	'14年度実績 (利益率)	'15年度見通し (利益率)	増減 (増減率)
受 注 高	46,991	47,000	+8 (+0.0%)
売 上 高	39,921	42,000	+2,078 (+5.2%)
営業利益	(7.4%) 2,961	(7.6%) 3,200	+238 (+8.1%)
経常利益	(6.9%) 2,747	(7.1%) 3,000	+252 (+9.2%)
特別損益	△420	△500	△ 79 -
純 利 益(※)	(2.8%) 1,104	(3.1%) 1,300	+195 (+17.7%)
R O E	6.5%	7.1%	+0.6pt -
EBITDA	(11.7%) 4,650	(12.0%) 5,020	+369 (+7.9%)
フリーCF	386	0	△ 386 -
配当 (1株あたり)	11円 (中間5円/期末6円)	12円 (中間6円/期末6円)	

(※)'15年度見通しは「親会社株主に帰属する当期純利益」

【未確定外貨】

15億ドル (期首: 30億ドル)
3億ユーロ (期首: 4 億ユーロ)

【前提為替レート】

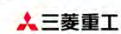
1ドル = 115円
1ユーロ = 130円

© 2015 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

11

11・12ページは当年度の業績見通しを記載していますが、前回公表値から変更はありません。

2015年度業績見通し セグメント別内訳



(単位: 億円)

	受 注 高			売 上 高			営業利益		
	'14年度 実績	'15年度 見通し	増減	'14年度 実績	'15年度 見通し	増減	'14年度 実績	'15年度 見通し	増減
エネルギー・環境	19,236	20,000	+763	15,995	16,000	+4	1,626	1,700	+73
交通・輸送	9,992	7,000	△ 2,992	5,295	6,500	+1,204	234	450	+215
防衛・宇宙	4,174	4,000	△ 174	4,839	4,500	△ 339	285	270	△ 15
機械・設備システム	13,046	15,000	+1,953	13,195	14,000	+804	841	850	+8
その他	1,908	2,000	+91	1,828	2,000	+171	138	150	+11
消去または共通	△ 1,367	△ 1,000	+367	△ 1,233	△ 1,000	+233	△ 166	△ 220	△ 53
合計	46,991	47,000	+8	39,921	42,000	+2,078	2,961	3,200	+238

➤ 前回公表値より、いずれも変更なし

© 2015 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

12

以上、当期の決算を総括してみますと、新しい2015事業計画の初年度の半期実績としては、良い点・悪い点とも色々ありましたが、全体の評価としては概ね順調に推移していると判断しています。

一方、伸長事業の規模拡大、M&A案件のPMI加速等、2015事業計画で掲げた施策を推進し、財務基盤の強化を進めていますが、今回の決算も踏まえ、現在、当社として事業計画遂行上の課題と認識している点を説明します。

まず、M&A案件のPMIの推進を更に加速する必要があるということです。特に、事業規模拡大の中で膨らんだB/Sや固定費の圧縮・整理が十分に進んでいないことが課題と認識しており、現在はそれらを押し進める上で先行費用を掛けている状況ですが、効率的な経営を推進してシナジーが発揮できるよう進めてまいります。

次に、今後MRJ事業を推進していく上で、全社として確実にキャッシュ・フローを獲得していく必要があります。客船については当期のキャッシュ・フローに大きな悪影響を及ぼしましたが、確実なキャッシュ・フロー獲得のためにも、新技術・新市場への参入などリスクの高い事業に対する手当をしっかりとやってまいりたいと考えています。

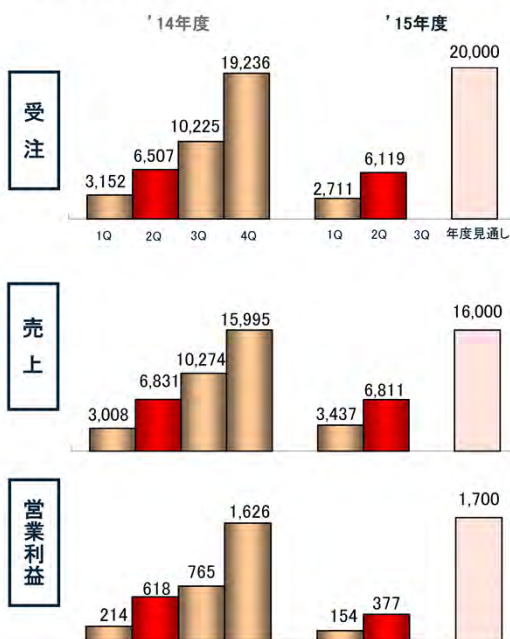
一方、グローバルベースで見ますと、競合先の集約・強大化や世界経済の減速など事業環境の厳しさが増えています。このような状況下、事業環境の変化に迅速かつ柔軟に対応し、グローバルコンペチターと伍していくための更なる財務基盤を構築する必要があります。財務体質の強化という点では、改善の余地はまだあると考えておりますので、課題を明確にして確実に実行してまいります。

Ⅲ. 補足資料

補足資料① 第2四半期決算実績 <エネルギー・環境>



(億円・各期の数値は累計)



受注 : 対前年同期 △388億円の減少

大型案件を受注した化学プラントが増加した一方、前年同期に複数の新設プラントの受注があったコンベンショナルが減少したことなどにより、前年同期を下回った。

【ガスタービン受注台数】

'14-2Q累計 : 17台

	北米	アジア	国内	その他	合計
大型	-	1	1	-	2
中小型	-	1	7	7	15
合計	0	2	8	7	17

'15-2Q累計 : 8台

	北米	アジア	国内	その他	合計
大型	1	5	1	-	7
中小型	-	-	-	1	1
合計	1	5	1	1	8

【ガスタービン契約残台数】

	大型	中小型	合計
'14-2Q末	37	39	76
'14年度末	34	33	67
'15-2Q末	37	30	67

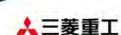
売上 : 対前年同期 △19億円の減収

化学プラント等が増収となった一方、火力発電プラント等の減収により、前年同期を下回った。

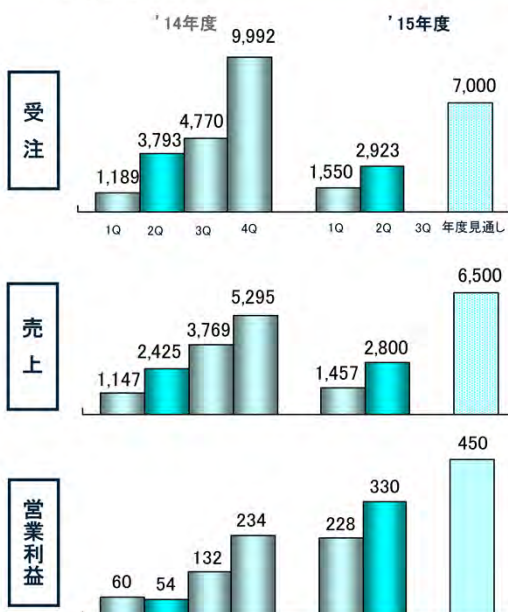
損益 : 対前年同期 △241億円の減益

一部のガスタービンコンバインドサイクル用蒸気タービンの不具合対策費用の計上や、火力事業のPMIを進める上での先行費用を掛けていることなどにより、前年同期を下回った。

補足資料① 第2四半期決算実績 <交通・輸送>



(億円・各期の数値は累計)



受注：対前年同期 △870億円の減少

前年同期に大型受注のあったMRJや交通システムが減少したことなどにより、前年同期を下回った。

【商船 受注隻数】

'14-2Q累計：6隻 (1Q:3隻、2Q:3隻、3Q:1隻、4Q:4隻)

'15-2Q累計：6隻 (1Q:4隻、2Q:2隻)

【商船 契約残隻数】37隻

(LNG船 12隻、LPG船 7隻、フェリー/貨客船 2隻、巡視船 6隻 他)

売上：対前年同期 +375億円の増収

円安効果のあった民間航空機を中心に増加し、前年同期を上回った。

【B777 引渡機数】

'14-2Q累計：50機 (1Q:26機、2Q:24機、3Q:26機、4Q:22機)

'15-2Q累計：55機 (1Q:28機、2Q:27機)

【B787 引渡機数】

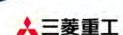
'14-2Q累計：60機 (1Q:32機、2Q:28機、3Q:30機、4Q:32機)

'15-2Q累計：63機 (1Q:32機、2Q:31機)

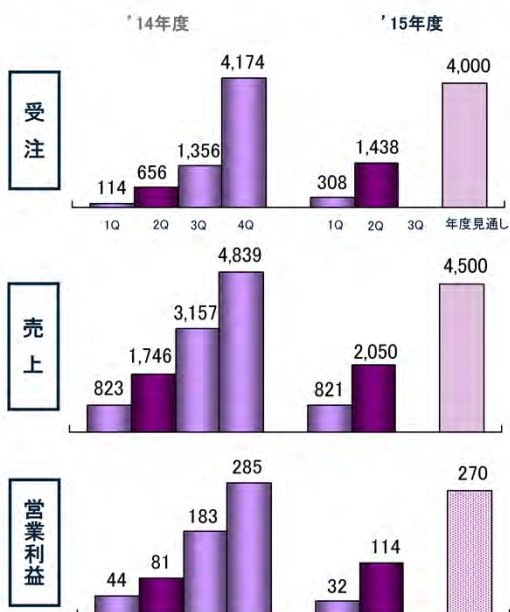
損益：対前年同期 +275億円の増益

民間航空機のコスト改善や商船の船種ミックス改善等に加えて、円安効果もあり前年同期を上回った。

補足資料① 第2四半期決算実績 <防衛・宇宙>



(億円・各期の数値は累計)

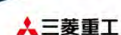


受注 : 対前年同期 +782億円の増加
防衛が増加し、前年同期を上回った。

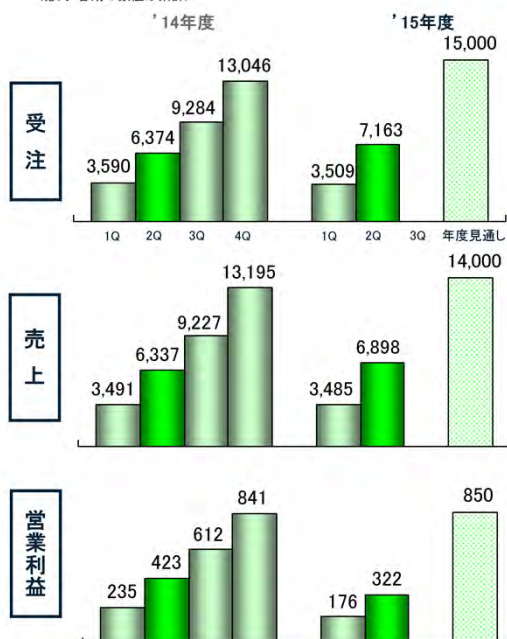
売上 : 対前年同期 +303億円の増収
艦艇等、防衛を中心に増加し、前年同期を上回った。

損益 : 対前年同期 +32億円の増益
防衛等の増収に伴い、前年同期を上回った。

補足資料① 第2四半期決算実績 <機械・設備システム>



(億円・各期の数値は累計)



受注 : 対前年同期 +789億円の増加
売上 : 対前年同期 +560億円の増収
 製鉄機械・フォークリフトの事業統合効果や
 従来事業(ターボチャージャ・冷熱等)の規模拡大により
 前年同期を上回った。

損益 : 対前年同期 △101億円の減益
 前年同期に在外グループ会社決算期変更があった影響等
 により、前年同期を下回った。

1. 研究開発費、減価償却費、設備投資

(単位:億円)

	'14-2Q累計	'15-2Q累計	'15年度 見通し
研究開発費	573	583	1,500
減価償却費	753	755	1,700
設備投資	754	758	1,800

2. 販売費及び一般管理費

(単位:億円)

	'14-2Q累計	'15-2Q累計
販管費	2,533	2,708

3. 為替レート

	'14-2Q累計	'15-2Q累計
USドル(円/USドル)	102.5	121.4
ユーロ(円/ユーロ)	137.3	133.2

4. 海外地域別売上高

(単位:億円)

	'14-2Q累計		'15-2Q累計	
アジア	3,394	(20%)	3,294	(18%)
北米	3,084	(18%)	3,810	(20%)
欧州	1,784	(10%)	1,862	(10%)
中南米	520	(3%)	721	(4%)
中東	603	(3%)	454	(2%)
アフリカ	430	(2%)	466	(2%)
大洋州	207	(1%)	132	(1%)
合計	10,025	(57%)	10,743	(57%)

5. 所在地別セグメント情報

(単位:億円)

		'14-2Q累計		'15-2Q累計	
日本	売上高	13,685		13,959	
	営業損益	957		973	
北米	売上高	2,015		2,537	
	営業損益	12		30	
アジア	売上高	2,077		1,913	
	営業損益	169		151	
欧州	売上高	1,643		1,846	
	営業損益	37		△ 7	
その他	売上高	213		504	
	営業損益	6		12	
消去または共通	売上高	△ 2,045		△ 1,940	
	営業損益	—		—	
合計	売上高	17,591		18,820	
	営業損益	1,182		1,159	



この星に、たしかな未来を

© 2015 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.